

- (4) 立派なわい性台苗木は、フェーザの多く出たものである。またフェーザは水平に出すようにすると、花芽の着きもよく、早期結実に結びつく、そのためには、3年ころまで誘引が大切である。

## 2 りんごわい性台木M9について

本県でのわい性りんご台木については、わい性の程度や土壌の適用範囲などから、わい性台ではM26、半わい性台ではM7、MM106をすすめているが、とくに土壌や気象の状態から一部にM9の使用もみられる。この台木はウイルスの保毒台木であり、この台木の扱いは次の点に注意する。

- 1) M9=これは数種のウイルスを保毒しており、この台木を使用した苗木は、品種によって生育を損なったり、欠株を生じることがあるので、予備苗を多く準備しておくことが望ましい。この台木の繁殖に際しては、台木根の発生が悪く、実生台などを用いる場合でも、培土や水管理など、発根し易い土壌環境をつくってやることである。つがる/M9は衰弱、枯死する例(長野、岩手)が起っている。
- 2) M9A=これは数種のウイルスに対し、無毒株である台木のことである。またこの繁殖は取木によるのがよい。

現在、種苗業者が育成した苗木で、M9Aと呼ばれているものに、次の2種がある。

- ① 熱処理をしてCLSV無毒として実生台や、丸葉台に接いでいるもの。
- ② M9Aと称する台を実生台や、丸葉台に接いだもの。

これらは本来のM9Aと異なり、CLSV以外のウイルスは保毒しているおそれがある。したがってこれらの台木は、いずれもM9台と同様、生育、結実、収量など本来のM9Aと異なるようであり、購入に注意するとともに、繁殖にあたっては、発根しがたいので、土壌環境をよくすることが大切である。

## 3 52年度りんご病害虫防除暦に採用した農薬の特性と使用法

最近の果樹農薬は病害に対する抵抗性の問題や、安全使用基準等の関係から大巾に規制されつつある。また数種の病害に対して効果の大きい農薬は少くなり、ややもすれば特效薬的存在のものが多い。従来のもに比較してその効果が高く、新しく普及に移した農薬は、つぎの3種である。

### (1) ジマンダイセン水和剤(マンゼブ剤)

- ① 特性=赤星病や黒星病、黒点病などに対して高い防除効果を示す。残効期間は7-10月ぐらいで、薬害もなく、予防効果が高い。
- ② 使用法=赤星病を対照に600倍の濃度で開花直前に1回散布するが、この時期には黒